

# 公開実用 昭和 59— 7938

① 日本国特許庁 (JP)

② 実用新案出願公開

③ 公開実用新案公報 (U)

昭59—7938

④ Int. Cl.<sup>3</sup>  
F 16 F 1/44  
15/00

識別記号

庁内整理番号  
7111—3 J  
6581—3 J

⑤ 公開 昭和59年(1984)1月19日

審査請求 未請求

(全 頁)

53 ダンパ部材

72 考 案 者 山田隆夫  
横浜市神奈川区神大寺828の3

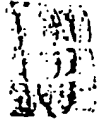
21 実 願 昭57—104159

71 出 願 人 日本鋼管株式会社  
東京都千代田区丸の内1丁目1  
番2号

22 出 願 昭57(1982)7月9日

72 考 案 者 千田信彦  
青梅市今井一丁目564の5

73 代 理 人 弁理士 鈴江武彦 外2名



## 明 細 書

### 1. 考案の名称

ダンパ部材

### 2. 実用新案登録請求の範囲

大きな塑性変形能力を有する金属の小片を弾性を有する物質中に均一に混入してなるダンパ部材。

### 3. 考案の詳細な説明

この考案は大きなエネルギー吸収能力を有するダンパ部材に関するものである。

従来高分子材料の高い粘性を利用した粘弾性体がダンパ部材として使用されているが、必ずしも十分なエネルギー吸収能力をもっており、また価格も比較的高価なものであった。

この考案は、上記のような実情にかんがみてなされたものであってその目的は大きなエネルギー吸収能力を有する価格の安いダンパ部材を提供しようとするものである。

この考案のダンパ部材は大きな塑性変形能力を有する金属の小片を弾性を有する物質中に均



一に混入したものである。

以下この考案の一実施例を第 1 図，第 2 図により説明する。これは例えば鉛或いは銅等の大きな塑性変形能力を有する金属の小片 1（カットワイヤ状，平鋼板状，フレーク状等）を弾性を有する物質 2 例えばゴム，プラスチック等に均一に混入して長方形或いは円柱状に成形したものである。これにより物質 2 は金属 1 の座屈防止材としての作用があり、金属 1 の変形性能を十分に発揮させることができる。

このダンパ部材に振動が加わると金属の小片 1 と弾性物質 2 が一体となって、金属小片 1 の塑性変形と弾性物質の弾性変形とにより振動エネルギーを効果的に吸収する。

なお、この実施例のように個々に小さいブロックに成形することなく、大きなブロックに成形し所望の大きさに切断して使用するようにしてもよい。

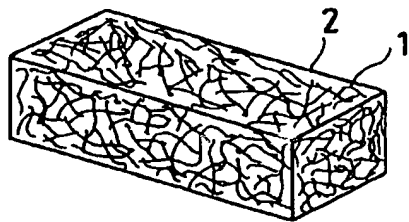
この考案のダンパ部材は上記のようなもので、大きな塑性変形能力を有する金属の小片を弾性

10

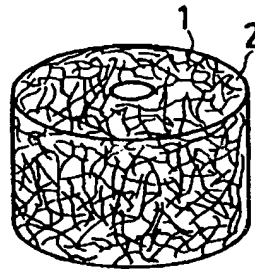
第 1 図及び第 2 図はそれぞれ形状の異なるこの考案の一実施例を示す斜視図である。

出願人代理人 弁理士 鈴 江 武 彦

第 1 図



第 2 図



384

実開59-7938

出願人 日本鋼管株式会社  
代理人 鈴 江 武 彦